English Abstract for JP 49-10109

Iron oxide containing waste from blast furnaces and converter furnaces are formed into pellets with carbonaceous reducing powder and reduced into iron pellets in a rotary-type high temperature reduction furnace. For reduction, the iron-pellets are maintained at a temperature ranging from 980 to 1200°C for 30 to 60 minutes in the rotary furnace.





昭和47年 5月 27日 25

....

方式

1. 発明の名称 タリキルンによるダスト処理方法

兊

広島市政音新町|丁目8番2]号 H

3. 特許出願

東京都千代田区丸の内二丁目 5 番 1 号 三菱重工条株式会社

代杂书

Æ

東京都手代印区丸の内二丁R5番19

5. 添付書類の目録

(1)(2)

通

(3) **顧舎副本** 通 通

(4) 委任状

052849

(19) 日本国特許庁

公開特許公報

①特開昭

49 - 10109

43公開日 昭49.(1974) 1.29

20特願昭

47-5-2849

20出頭日

昭47.(1974) よ. 2 ク

審查請求

(全4頁)

庁内整理番号

50日本分類

7147 42

105113 10 TIII

発明の名称

ロータリャルンによるダスト処理方法

特許請求の範囲

高炉。転炉等から排出されるダストあるいは、 ミルスケール 等の鉄酸化物を主体とする炭素含 有廃棄物をペレット状にして、ロータリキルス により最元処理するにあたり、前配ロータリキ ルンの原料装入口からロータリキルンの 全長の 408を超えない点より後方のキルン内充填物 歴度を980℃~1200℃に達するように保 持して、前記ペレットおよび炭素製造元剤をキ ルン容積比であ以下となるように装入するとと もに、該ペレットのキルン内平均希留時間を 30~60分とし、かつ、ロータリキルンを 0 5 ~ 1 5 rpm の速度で回転させるととを特徴 とするロータリキルンによるダスト処理方法。

発明の詳細な説明

近年の著しい製鉄所の生産性の増強に伴い発 生する各種グストの量も増大し、従来廃棄され ていた。これらグストを、高炉装入用原料に再

生利用する方法が注目されてきた。この方法と してもつとも昔及している方法がロータリキル ンによる還元焼成法である。

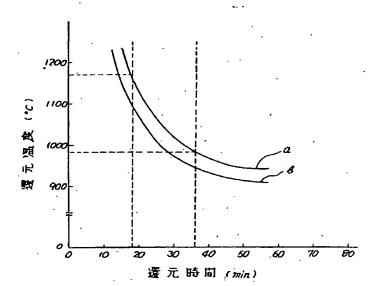
すなわち。 ダストの主成分は酸化鉄であり. とれにC. ZnO, CaO, SiO, S等を含んでい るが。混合ダストを通常の方法で造粒乾燥し、 ロータリキルン内で1000~1200℃に加 熱鋭成することにより、Cは酸化鉄を還元して 金属鉄を生じ。ペレットの強度を向上すると共 化、さらに重要な作用はZnOを盈元してZn を 揮発除去することにある。

とのように強度を向上されるとゝもに脱るn されたダスト焼成ペレットは高炉装入鉄原料と . して適した性状とされるのである。 ナなわち. 治療が大であるから麻炉に装入されたのちも。 崩壊により粉を発生して棚釣りを生ずるような 恐れもなく。さらに脱Znされているために、2n による高炉接然上の不具合も生じない利点も生 しるのである。

ところが、ダストペレットの特徴として原料

特別昭49—10109 (4)

6. 前記以外の発明者・代理人 (1) 鬼 明 者



(2) 代理人 住所 京京都千代田区文の九二丁目5名19 三要武工章は元会社内(電 212-3111) 氏名(5690) 弁別1 田島 - 鄭